



いわみざわ アートアカデミー

主催 岩見沢市
令和3年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

アートアカデミー実施概要

学校卒業後における障がい者が、北海道教育大学の教員や学生と関わりを持ちながら、芸術の鑑賞、創作について学び、展示会の企画にかかわることで自己実現を図り、ひいては芸術を教わる側から教える側になることで、地域社会の中で役割を持ち、自尊心をもって自分らしく暮らせる社会の実現を目指す。

【参加申し込み数：リアル会場 32名 + オンライン13名 計 45名】

①芸術鑑賞学習会

教育大学岩見沢校の教員・学生らの解説により作品を鑑賞する機会を持ち、作品に込められた思いや表現の工夫など、鑑賞する楽しさを感じてもらう。

②創作体験・創作学習会

様々な画材を使った創作体験会を開催し、画材や画法、創作技術について学びを深める。障がいのある人とない人が一緒に作品を創作することにより、障がいへの理解を深める場とする。

③展示技術学習会

額装、展示技術、展示空間の作り方に関する講座を行い、作品の魅力をより際立たせる展示技術を学ぶ。

④展示実践学習会

習得した知識および技術により、展示会の企画運営に携わる。展示ボランティアとして北海道教育大学の学生等にも参加してもらい、障がいのある人とない人が協働する場とする。



いわみざわ アートアカデミー

受講料
無料
定員30名

障がいのある人の学校卒業後の学びの場として、北海道教育大学岩見沢校の協力のもと、芸術の鑑賞・創作等について学ぶ「いわみざわアートアカデミー」を開催します。

- ① 芸術鑑賞学習会 岩見沢市公式YouTubeで随時配信
- ② 創作体験・創作学習会 11/10・11/24・12/1
「会場参加（いわなび）」または「オンライン」
- ③ 展示技術学習会 12/15
「会場参加（いわなび）」または「オンライン」
- ④ 展示実践学習会 12/18～12/24
北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」

主催 岩見沢市
令和3年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

① 芸術鑑賞学習会
作品の見どころや表現の工夫、作品に込められたメッセージなどを北海道教育大学岩見沢校の学生さんと一緒に解説してもらい、「芸術文化を鑑賞する」ということについて学びます。
【配信予定内容】
岩見沢市給園ホール 札幌正幸記念館展示作品、北海道教育大学岩見沢校sowfi-scow展示作品ほか
※岩見沢市公式YouTubeで随時配信

② 創作体験・創作学習会
創作することの楽しさなどを講義で学び、様々な画材を使った制作体験を通じて、画材や画法、制作技術について学びを深めます。
講師 北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント研究室
会場 岩見沢市生涯学習センター「いわなび」
またはオンライン参加

③ 展示技術学習会
鑑賞や展示技術、展示空間づくりについて学び、作品の魅力をより際立たせる展示技術を身に付けます。
講師 教育大学岩見沢校アートマネジメント研究室
会場 岩見沢市生涯学習センター「いわなび」
またはオンライン参加

④ 展示実践学習会
アートアカデミーの中で制作した作品等を受講者のアイデアを活かして展示します。
会場 北海道教育大学岩見沢校「森の岩ギャラリー」
12月18日（土）～24日（金）

いわみざわアートアカデミー参加申込書

参加をご希望の方は必要事項をご記入のうえ、岩見沢市健康福祉課（※窓口）にお持ちいただくか、FAXでお送りください。Eメールの場合は、メール文に必要事項を記載して下記アドレス宛にお送りください。
FAX 0126-24-0294 Eメール fukuhikuh@homanosu.jp 参加申し込み締切日 令和3年11月2日（火）

| | |
|------------------------------------|---|
| ふりがな氏名 | 参加にあたって必要な配属に✓をつけてください。 <input type="checkbox"/> 宇話通訳 <input type="checkbox"/> 筆談 <input type="checkbox"/> 口舌字 <input type="checkbox"/> その他() |
| 住所 | |
| Eメール | |
| 電話 | |
| FAX | |
| ②・③の学習会への参加方法 (どちらかに✓をつけてください。) | <input type="checkbox"/> 会場参加 または <input type="checkbox"/> オンライン参加 ※オンライン参加をご希望の場合は、ID等を後日メールでご連絡します。 なお、受講にかかる受講料等は自己負担となります。 |

【問合せ】 岩見沢市健康福祉部福祉課（担当：山田） ☎0126-23-4111（内線258）

アートアカデミー開催の様子

創作体験・創作学習会<リアル会場+オンライン>
全3回（11月10日、11月24日、12月1日）
ペン系画材、絵の具系画材、色々な画材



北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント研究室の三橋教授・学生に講師をしてもらい、創作することの楽しさや画材や画法について学びを深めました。

パステルなどの初めて使う画材も、学生にサポートしてもらい、ぼかしやグラデーションといった技法に挑戦しました。講義の時間中に完成しなかった作品は持ち帰って完成させてもらいました。



アートアカデミー開催の様子

創作体験・創作学習会<リアル会場+オンライン>

全3回(11月10日、11月24日、12月1日)

ペン系画材、絵の具系画材、色々な画材の使い方について



北海道アールブリュットネットワーク協議会さんや市内障がい福祉事業所のスタッフさんにも創作活動をサポートしていただきました。

会場の講義内容や創作活動の様子は、zoomを使ってオンラインで配信しました。zoomで作品を見せ合い交流する光景も見られましたが、画材を使うコツ等はオンラインで伝えるのはなかなか難しいものでした。



アートアカデミー開催の様子

展示技術学習会<リアル会場+オンライン>

12月15日

額装や作品の魅力を際立たせる展示方法について



額縁の構造やなぜ額装するのか、作品や会場によって様々な展示方法・見せ方ができることを学び、自分の作品の額装に挑戦しました。

額装の仕方もzoomで配信しました。



アートアカデミー開催の様子



アートアカデミー展示会

12月18日（土）～24日（金）10時～16時
北海道教育大学岩見沢校
「森の岩ギャラリー」

参加者が創作し、自分で額装・展示の準備をした作品を教育大学キャンパス内「森の岩ギャラリー」に展示しました。会場内では、アカデミーでの創作の様子などをスライドショーにして来場者にご覧いただきました。

障がいのある人の学校卒業後の学びとしての芸術文化の可能性

【アンケートでのご意見】

「良かった」、「楽しかった」との声が多かったが、「創作の時間が短かった」、「回数をもっと増やしてほしい」との意見も。

→新型コロナ感染拡大防止の観点から、講義の時間を短めに設定したがコロナの情勢に影響を受けないようなプログラム構成の検討が必要。また、障がいの種別・程度によって、集中して受講できる時間の長さや理解度が異なるので、コース分けの検討も必要と思われる。

オンラインで講師の説明を聞いても分かりづらかったので、あらかじめオンライン用の映像を用意してほしい。

→オンライン配信の内容や方法、事前準備は今後さらに検討・研究

「芸術文化を学ぶことについて関心が高まったか」との問いにはほとんどの参加者が「高まった」と回答。

→成果を一過性のものとしないうちにも、継続的に学びの場を作っていくことが必要と考えるが、ゆくゆくは、障がいのある人が自発的に学びを深めていけるような支援の方法を検討していく必要がある。

第8回いっしょにね！文化祭開催報告

障がいのあるひと、ないひと、
いっしょに楽しむ発表会

いっしょにね！文化祭実行委員会事務局
杉澤洋輝

1

三角山放送局のおきて

★ステーションコンセプト「いっしょに、ねっ」

- ①伝えたいことがある人がマイクの前に座ること。
- ②お年寄り、子ども、障害のある人、LGBTの人、外国人、少数者や弱い立場の人たちの声を、決して切り捨てず、積極的に届けること。
- ③放送で嘘はつかないこと。



⇒誰もが思いを発信できる
放送局を作ろうとした

2

「いっしょに、ね」の精神

★おきて②: 社会的少数者の声を、決して切り捨てず、多様な意見を積極的に届けること。

- ◇視覚障害者がパーソナリティ「耳をすませば」「音を頼りに音便り」
- ◇さっされん(地域共同作業所)の利用者が出演「飛び出せ地域共同作業所」
- ◇車いすユーザーがパーソナリティ「飛び出せ!車イス」
- ◇パーソナリティがLGBTQ「ハッピーゲイアワー」「にじいろスマイルラジオ」
- ◇英語・中国語・韓国語だけで放送「サツポロ・ナビゲーション」
- ◇札幌刑務所受刑者のリクエスト番組「苗穂ラジオステーション」
- ◇乳がん早期発見、早期治療を呼び掛け・がん患者応援番組
「ピンクリボン」
- ◇ALSと闘病するパーソナリティによる「のたわごと」
- ◇障がい者スポーツ、パラスポーツ情報発信番組「パラスポ!三角山」

3

三角山放送局は「いっしょにね」における 放送と福祉をどう考えたか・・・

- ・ 地域社会は福祉を抜きに考えられない
 - ・ 地域福祉課題を伝え、議論の場を提供していくのは、コミュニティFMの使命
 - ・ 少子高齢社会、人口減少、単身世帯急増、貧困、社会的介護、生活保護をめぐる問題、児童虐待、DV、がんサバイバー、自殺増、孤独死等
 - ・ 無縁社会から有縁社会へ
- ⇒ 誰もが日常的に伝えられる場づくりが重要

4

●「耳をすませば」初代パーソナリティ:

福田浩三さんと盲導犬のセディくん

福田浩三さんは、網膜色素変性症により40代で光を失い、開局時より番組を担当してくれました。2005年頃から盲導犬セディくんと共に放送局へ通っていました。

盲導犬育成の寄付を目的とした

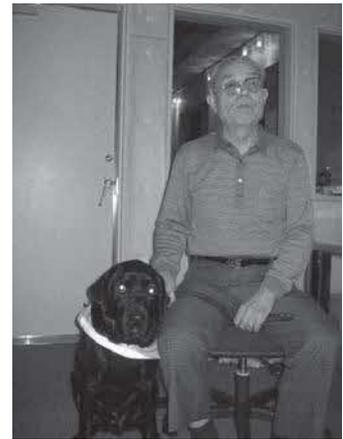
「盲導犬チャリティわんわんコンサート」

を自ら提唱し、放送局とともに3回開催、実行委員長を務め、

このイベントは、「いっしょにね！文化祭」の基礎となりました。

2013年10月逝去。番組は有志の皆さまのおかげで現在も継続し、

「いっしょにね！文化祭」の仲間たちの番組としても機能しています。



5

ねんりんピック北海道・札幌2009
三島山放送局・FMアップル Presents

おとなの文化祭

出演者募集!

2009年
開催日時 9月6日(土) 14:00～16:00
9月7日(日) 出演時間開演中

会場 北海道立総合体育センター
きたえーる 屋外テントステージ

出演資格
●年齢：65歳以上(グループ、コーラス、合唱など)
●性別：男性、女性、若手、若女、若手、若女、若手、若女

出演方法
演劇の出演申し込み用紙に必要事項を記入し、写真と併せて三島山放送局に郵送するか、お申し込みください。

出演料
出演料は、出演者個人グループへ渡ります。主催者側より渡ります。

申し込み用紙は裏面へ

2009年 ねんりんピック
北海道・札幌2009
「おとなの文化祭」企画制作

2011年 福祉作業所展示も！ 地域の芸達者大集合「おとなの文化祭」主催

地域の芸達者集合!
「三島山 いっしょにねっプロジェクト」
三島山一庫 お祝日公演

おとなの文化祭

出演者・募集中!

2011年
開催日時 12月17日(土) 13:00(開演)

会場 札幌市生涯学習センター
「ちえりあ」ちえりあホール
(札幌市東区南一条1丁目1番10号)

参加費
『おとなの文化祭』参加費 1,000円
入場チケット 2,000円
(お一人様1枚の入場チケットのみです)

申込資格
個人・グループ・団体、サークル等で演劇している方
お申し込み用紙
●年齢：65歳以上(グループ、コーラス、合唱など)
●性別：男性、女性、若手、若女、若手、若女、若手、若女

申込方法
地域の芸達者大集合! 必要事項を記入し、写真と併せて三島山放送局に郵送するか、お申し込みください。

申込料
申込料は、出演者個人グループへ渡ります。主催者側より渡ります。

申し込み用紙は裏面へ

6



2012年 放送大学北海道学習センターと共同で
「みんなの文化祭」を札幌・函館・帯広で開催

7

いっしょにね！文化祭へと発展

- 2014年、第1回開催。北翔大学との共催。



タイトル：「いっしょにねっ！文化祭 in SAPPORO」

趣旨：障がい者と健常者が一緒に参加する生涯学習発表の場。音楽・舞踊などステージ発表と、作品展示や販売などを行い、文化芸術を通じて生涯学習の実現の場とする。主催：実行委員会 事務局：NPO法人三角山

8

いっしょにね！文化祭の特徴

- 多様な人たちが同じステージでパフォーマンスを繰り広げる文化発表会。
- 理念は「いっしょに、ねっ」:テーマは相互理解
- 異なる団体やサークル間の連携ステージも活発に行われ、よりお互いを知り合う
- 当事者団体、行政、大学、医療機関、企業、NPOなど地域における多様なプレイヤーが集結。
- 北海道、札幌市などの助成、民間団体の助成、企業からの協賛金によって経費を工面。

9

これまでの歩み

・ダンス、歌、バンド演奏などのステージパフォーマンスのほか、絵画や工芸品などの作品展示を実施。文化祭開催当初の舞台発表では、参加団体それぞれのパフォーマンス発表のみでしたが、4回目の平成29年度からはコラボレーションが可能な団体同士が共同して新たなパフォーマンスを創作、発表したり、ラストには全員参加の「合同パフォーマンス」をおこなうなどその取組は年々進化しており、当日は、参加団体や来場者間での交流がさらに深まる、きっかけづくりの場にもなっています。



10

いっしょに、ね社会の醸成

●文化祭の開催に向けて、出演者ミーティング（事前発表会）や実行委員会を重ね、準備段階から障がいの有無にかかわらず、出演する人たちが交流を深め、一緒に楽しみ、助け合いながら作り上げています。

●障がい者の文化活動への参加意欲の喚起はもとより、健常者の障がい者に対する理解の深化、障がいを持つ当事者と支援する各団体を繋ぐ貴重な交流機会の場としても、共生社会の形成という面で大きな貢献を果たしています。

●さらには、この文化祭の来場者や地域の各種団体から、地域のさまざまなイベントやお祭りへの参加を打診されるなど、お互いを認め合う共生社会のきっかけづくりに寄与しています。



11

第7回・8回はコロナ対策を考慮しての実施となりました

- 第7回（2020.10.3）、第8回（2021.10.2）観客制限ありのリアル開催と、オンラインとのハイブリッド開催となりました。



12

リモート出演で参加形態も多様に



ニュースタイルでの「いっしょにね！文化祭」を実現

- ①リモート参加の新形態:より多くの方に参加いただけた
- ②ステージ台を設けずフラットにし、空間を広く使えた
- ③ 時間 分⇒ 時間 分となり、出演者もお客様も間延びせず集中して参加できた

13

YouTubeでのアーカイブ視聴増

検索

いっしょにね！文化祭
表会～
チャンネル登録者数 77人

ホーム 動画 再生リスト チャンネル

アップロード動画 ▶ すべて再生

第8回いっしょにね！文化祭
【アーカイブ】
1890 回視聴・
4ヶ月前に配信済み

第7回いっしょにね！文化祭
【アーカイブ】
2116 回視聴・1年前に配信済み

第8回では「事前収録、リモートでのLIVE中継出演」がおよそ半数。収録参加ではさらに大人数での参加、工夫趣向を凝らした映像があった。通常開催よりも会場のにぎわいは減ったが、参加形態の多様化が図られ、新たな可能性がみられた。換気による休憩時間も出展・作品展示コーナーの紹介を入れ、YouTubeの進行もよかった。さらにどうつながりを広げていか、いかに持続可能な場にしていくかなどが課題です。

14

三角山放送局の地域メディアとしての役割

地域をかき混ぜ、新しい価値を創出すること

⇒ひとを放っておけない社会にするために。

「地域内の多様な組織・団体・ひとの相互連携を通して、暮らしの中に生まれる問題を取り除くための情報伝達者であり、議論の場の提供者であること」

「いっしょにね！文化祭」もその活動のひとつ



自分の障がいについて

カムイ大雪バリアフリーツアーセンターの三田地です。よろしくお願いします。
自分は26年前ドライブの帰りに助手席に乗っていて交通事故で首の骨が折れて神経が切れたので
頸椎損傷になり四肢麻痺で手足が麻痺して胸からは感覚がなく手は動きますが両手は握力が0です。

次にイベント参加の不安ですが移動での悪路な道、段差や登り下り坂など雨の日や車いすトイレがあるのかなどです。
誰かのサポートがないと参加できないという不安があります。



毎年行われているサンロク祭りでは露店やUD神輿を車いす紅蓮隊で行われてきましたがコロナ渦で2年、開催されてません。車いす神輿は年齢、障がい有り無し関係なく誰でも参加できるようにお神輿には工夫されてます。世界に一基しかないUD神輿です。お神輿には車輪がついていて車いすユーザーや視覚障がいの方でも段差や坂道を介助してくれるので一緒に担いで楽しめるイベントです。露店ではチーム紅蓮の露店で焼き鳥やビールなど販売をして賑わいました。サンロク街周辺のホテルではトイレを使わせていただき良かったです。



相田奈美(27歳) 病名:骨形成不全症(骨が弱くて折れやすい病気)
小さい頃は外出も、あまりできずに過ごしてきました。



さんろくまつりに参加した時は、いろいろな方と交流をしました。初めて行った時は人混みに驚き、歩いている人の足を車輪で轢かないかドキドキでした(笑)



旭川北彩都ウォーキングの集い
自然を感じながら仲間達とお散歩しました。外なので、砂利道、段差などはボランティアの方などに押しってもらったりしました。



雪あかり、とても寒いですが(笑)冬しか楽しめない、味わえない景色や楽しさもあります！真冬こそ出歩くのが厳しい車いすユーザーですが、冬だからこそ、アクティブにイベントにも参加していきたいなと思います！

ユニバーサルベットとは



子どものおむつ替えだけでなく、高齢者、障害者等を含む、より多くの方が共用でき、多目的に利用できる大型ベッド・大人用ベッドのことです。大きい施設に車いすトイレが2個あった場合、一つだけユニバーサルベットが置いてある事が多いです。

車いすから見る イベント参加

堀楓香

自己紹介

堀 楓香
北海道札幌市在住。小さい頃から
ずっと地域のなかで育ってきた。
電動車椅子ユーザー。音楽と洋服が大好き。
24時間介助を受けながら、一人暮らしを
満喫している。
好きな服を着て出かけるのが楽しみ。
「全力で楽しく！」をモットーに生きている。



私は
ライブ参戦
トークショー
演劇
イベントに参加することが大好き！

しかし
イベントに参加する際、会場によって
参加しづらい環境がある。

例えば

- ・入口に段差がある
- ・イベントによって
介助者の料金もかかる
(自己負担)
- ・一人で参加した際の
サポート拒否

私がイベントに参加するときの流れ

- 運営側に電話する
- 車いすと知ると慌てる
 - 一人で参加と話すと
サポートできないと言われる
 - 承諾してやっとな参加できる

障がいがある人が参加することは
運営側にとって前提にない！

そのため、 参加しづらくなる当事者もいる



私がイベントに参加して感じたことは…

嬉しかった対応

- ライブに参加した際、
- ・会場スタッフがグッズを買うのを手伝ってくれた
 - ・入口に2段の段差があったが、躊躇せず車いすをおろしてくれた
 - ・何回かライブに参加していたため、顔を憶えていてコミニケーションが円滑に進んだ

何度も参加して
顔なじみになると、
相手の“緊張感”が
和らぐ？

もやもやした体験

- トークショーに参加した際
- ・車いすと伝えた時に過激に配慮しなければならなないと思われた
 - ・介助者が付き添わないと伝えると、スタッフはサポートできないと言われた
 - ・運営側の配慮が少なかった
- (サポート体制が必要だと思ったのが、同じ会場にいた友人のそばに席を用意しますか？と提案された)

↑友人は別の人とイベントに参加していた
同じ会場にいるとはいえ、それぞれの楽しみ方がある。
友人だから隣にいないといけなないとは限らない。

なぜ一人で参加するのか？

ライブ、トークショーは
介助者分の費用がかかる

一方、美術館や博物館は
介助者無料または割引がある

この違いは
何なのか？

介助者分の料金がかかるとか、かからないかは主催者側の判断が多い。定まっていらない。



お互いに事情を知ること、
捉え方が変わる

当事者側の視点

- ・ 介助者は自分のサポートする役割
2人で1人分と考える

主催者側の視点（予想）

- ・ 同じ空間、同じ物を見てい
るから1人のお客様として見
ている
- ・ 2人分の料金を取る

一人で参加した際、「手伝ってほしい」と声をかけられても身構えないでほしい。身近な人の落とし物を拾う感覚で！

障がいがあっても娯楽を楽しみたい！
でも毎回2倍の料金がかかると生活に響く。
どうすれば良いのか？

障がいがある人がイベントに参加する、かもしれない
ということが前提にあれば
もっととスムーズに参加することができる！

そのためには、話し合いを重ねていき
当事者がイベントに参加しやすい環境を
整えていく必要がある

介助者分の料金を負担してくれる制度
が欲しい

